

2023年度共通目的事業 実施事業一覧

一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）

<事業評価>

評価項目を確認した合計点数に応じて3段階で評価を記載（評価項目は本一覧の最終ページ参照）

合計点数が10点：A 合計点数が8点：B 合計点数が8点未満：C

【自主事業】

管理 No.	事業名	実施者名	事業概要	決定額 (円)	確定額 (円)	事業報告	事業評価
2023-1001	著作権広報誌発行事業	一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）	初等中等教育の教員に著作権に親しんでもらうことを目的として、教員を対象とした著作権に関する広報誌を作成し、全国の初等中等教育の学校、教育委員会等に配布予定。広報誌はA4判16頁（創刊号は8頁）とし、発行部数は113,000部を予定。発行回数は、2023年度は2023年12月及び2024年3月に2回発行予定。 また、SARTRASホームページに、PDF版を掲載予定である。	41,000,000	39,648,209	本誌配布後に、追加送付の希望が多数あった。また、研修や学校での著作物の取り扱いの喚起のために本誌を活用したいといった声が寄せられ、創刊号は大変好評であった。感想および追加送付数の詳細は添付資料のとおりである。また、教育関係者から著作権に対する教員の意識や著作物を利用する際の課題、疑問を直接寄せてもらうことにより、教育現場の現況をより具体的に理解することができた。2024年度以降も情報誌の発行を継続するため、内容をより充実させられるよう、寄せられた感想を活用し、より一層誌面の充実を図る。	B
合 計				41,000,000	39,648,209		

【委託事業】

管理 No.	事業名	実施者名	事業概要	委託決定額 (円)	委託確定額 (円)	事業報告	事業評価
2022-2001	「教員、及び児童生徒のための著作権セミナーの開催」事業	公益社団法人著作権情報センター	初等中等教育の教育機関の設置者等からの要請を受け付けて、教員に対しては、著作権制度の概要、学校運営上の著作権に関する留意点、児童生徒に対する著作権教育指導の留意点、授業目的公衆送信補償金制度の概要等を、児童生徒に対しては、その発達段階に応じて、著作権制度の概要を開催する事業である。2022年度に案内を配布して要請受付を開始し、2023年度にセミナーを開催する。	12,841,200	5,103,050	事業計画では20回開催を見込んでいたところ、22件の開催申込があり、23回開催することができた。また、セミナー参加者を対象に行っているアンケート結果（回答者数718名、回答率39.7%）では、参加して有意義であったとの回答が97.9%、講義内容について分かりやすかったとの回答が96.2%であったことから、本セミナーを開催した成果は十分にあったと考えられる。	B
2023-2001	教育における著作物利用に係る諸外国の著作権制度等に関する調査研究事業（フェーズ1）	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	我が国における本制度の円滑な運用の参考とするため、MURC社を事務局とした専門家等による検討委員会を設置し、調査方針、調査項目、調査内容等を決定し、イギリス、フランス、ドイツ、オーストラリア、韓国及びアメリカの6か国を対象に調査を実施する。また、調査は、文献調査、書面調査のフェーズ1、オンライン調査、現地調査のフェーズ2の2つのフェーズに分け実施することとし、本事業は、そのフェーズ1の調査となり、文献調査及び書面調査を実施し、報告書としてとりまとめる。	9,592,495	7,272,255	文献調査で明らかになる範囲では可能な限り詳細に整理した。しかしながら、特に知りたい情報である分配については積極的に公表されていないことから、情報量が限定的であった。この点は文献調査を実施する前から想定されたことであり、ヒアリング調査などで明らかにしていく必要がある。この点は次期調査により実施したい。	B
2023-2002	「クリエイターのための著作権講座開催」事業	公益社団法人 著作権情報センター	文化の担い手として日々著作物の創作活動に動みながらも、著作権法に精通する法律専門家から自己の有する権利の行使や適正な対価の取得に不可欠な著作権法の基本的な知識を学ぶ機会を得る機会がこれまでなかったクリエイター、並びにクリエイターをサポートする著作権関係団体職員等を主な受講対象とする著作権講座を開催し、権利者としての基本的な著作権知識の習得と著作権意識の涵養を図ることを目的とする。	5,944,255	3,578,514	① 受講者は当初予定した200名を超えたこと。 ② アンケートの結果、自由記入欄への好意的な書き込みが大半であったこと。	B
2023-2003	教育における著作物利用に係る諸外国の著作権制度等に関する調査研究事業（フェーズ2）	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社	三菱UFJリサーチ&コンサルティング社を事務局とした専門家等による検討委員会を設置し、調査方針、調査項目、調査内容等を決定し、イギリス、フランス、ドイツ、オーストラリア、韓国及びアメリカの6か国を対象に今年度上半期に文献調査を実施した（フェーズ1）。今回のフェーズ2では、フェーズ1の調査結果を踏まえ、文献調査では入手できない情報等について、現地調査及びオンライン調査を実施するとともに、オンライン調査や現地調査の協力が得られなかった場合に書面調査も実施することとする。 また、予算を効果的に執行するため、現地調査先は、欧州（英、仏、独）及び韓国の4か国とし、オーストラリア及びアメリカについては、オンライン調査で対応することとした。なお、検討委員会の開催は2回を予定している。	37,368,757	35,496,000	文献調査で明らかになる範囲では可能な限り詳細に整理した。現地ヒアリング調査を通じて我が国の教育における補償金の分配では導入されていない合理的な分配方法を知ることができた。また、他国のCMOとのネットワークが形成できたという副次的な効果も得られた。	B
合 計				65,746,707	51,449,819		

2023年度共通目的事業 実施事業一覧

一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）

<事業評価>

評価項目を確認した合計点数に応じて3段階で評価を記載（評価項目は本一覧の最終ページ参照）

合計点数が10点：A 合計点数が8点：B 合計点数が8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	申請者名	事業概要	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業報告	事業評価
2022-3002	国際著作権法学会(ALAI Japan)学会誌出版事業	日本国際著作権法学会(ALAI Japan)	本事業は、日本国際著作権法学会（ALAI Japan）の学会誌（2か年度）を、2022年度内および2023年度内にそれぞれ1冊ずつ出版し、当該学会誌を、権利管理団体等の関係団体や大学等教育機関の図書館等に寄贈すると共に、当該学会誌の一般販売（および会員への配布）の機会を提供することによって、著作権法に関する同学会の研究成果を権利者および社会に還元することを目的とする。	2,132,500	1,926,553	本事業は、著作権法に関する研究成果である本学会誌を権利管理団体等の関係団体や大学等に寄贈するものであり、寄贈先には好意的に収蔵いただきましたが、そうした成果は、貴協会の助成をいただければ必ず成功すると確信しておりましたので、そのような意味で、上記の成果は当初より予想したものと考えられます。以上のことから、「B：予想どおりの成果があった」と判断させていただきました。	B
2022-3004	著作権情報センター資料室の蔵書の充実、利用者サービスの拡充	公益社団法人著作権情報センター	日本で唯一の著作権に特化した図書施設である弊センター資料室に関して、学識者により構成された委員会における選定作業を行ったうえで、外国の図書資料を中心に蔵書の一層の充実を図る。併せて、図書館司書の常時配置、文化庁長官指定を受けての著作権法31条に定める複写サービスを開始し、利用者サービスの一層の拡充を図り、もって著作権及び著作隣接権の保護に資する。	15,775,414	15,765,274	図書選定委員会においては、助成額の範囲内ですべての選定した図書を蔵書できるよう選定したが、円安等の影響により、助成額の範囲内で蔵書できた図書は728冊中652冊に留まった。ただし、残りの76冊に関して、洋書店から入手困難との連絡を受けたいくつかの図書を除き、順次納品されている。以上から、予想どおりの成果があったと判断した。	B
2022-3019	視覚芸術分野のコンテンツに係る横断的データベース構築事業	一般社団法人視覚芸術振興協議会	学校等の教育機関が、授業目的公衆送信補償金制度に基づき、授業目的において安心して著作物を利用できるよう、視覚芸術全般の著作権情報に係るデータベースを構築し、著作権情報の集約、管理を行うとともに、授業において使いやすい形（メタ情報の整理等）でのコンテンツの提供を行う。具体的には、授業目的で利用する著作物に係る権利情報が簡便に検索できるよう、当該著作物に係る「著作権者ID」の附与や視覚芸術分野における著作権団体の会員名簿のデータベース化等を行う。	7,670,000	7,670,000	視覚芸術分野における権利者情報の収集・管理、ノンメンバーの登録、作品のアーカイブ化の具体的な運用主体及び運用基盤の整備ができた。	B
2022-3020	教育現場で正しく著作権法を運用するための教材開発	一般社団法人大学ICT推進協議会	本事業は、「教育を行う者」と「授業を受ける者」を対象とした、わかりやすい教材を開発し、それらを無償で公開することで、教育現場での著作権法の正しい理解と運用の促進を目指すものである。 具体的には、 ①著作権法の基礎から教育現場に関わりの深い権利制限規定までを説明する動画教材（対象：主に授業を受ける者）、 ②「著作権法第35条運用指針」をふまえ、教育現場で適切に著作権法を運用するためのポイントをわかりやすく説明する冊子（対象：主に教育を行う者）を開発し公開する。	15,798,300	15,708,639	質の高い著作権教育教材が開発でき、外部からの評価も受けため（CRICの会誌『コピライト』への巻頭エッセイ・情報処理学会誌ベータ語義への執筆、初等中等教育教員向けの会合であるCIEC 土曜カフェでの話題提供の依頼に加え、日本情報科教育学会全国大会で2023年7月発表した「教員向け・学生向けの著作権教育教材の制作と公開」は、優秀実践賞を受賞した。これらは、本開発教材が初等中等教育ならびに高等教育に携わる教職員に対し、広く役に立つものとして評価を受けたと考えている）。なお、各成果物の内容を実際にご確認いただきたい。	A
2022-3021	映画の新しい才能の発見と育成のための映画製作事業「PFFスカラシップ」	一般社団法人PFF	自主映画の映画祭「びあフィルムフェスティバル（PFF）」で入選した監督から1名を選出し、長編劇場映画を製作するトータル・プロデュース事業。新人監督の映画製作から劇場公開に至る過程を通して、新たな監督、脚本家、音楽家、俳優等の人材育成に寄与する。本助成事業においては、二人の監督で2作品を製作予定。	10,670,000	10,670,000	助成金による映画の製作費アップは、作品内容の充実と撮影環境の改善につながり、確実に新人監督の育成プロジェクトの制作状況を良好にさせることに寄与している。 当初は2名の監督で2本の映画を完成させる予定だったが、1名が企画開発途中で辞退したため、2023年度内の完成作品が「恋脳Experiment」1本となったことは残念である。	B
2022-3026	教育現場に直結する『日本近代文学大事典』増補改訂デジタル版の継続的構築	公益財団法人 日本近代文学館	2022年5月にリリースされたオンライン版『日本近代文学大事典』を補訂し、未登載のデータ、新規項目を加え、一年ごとに改訂していく。特に、第1次リリースで実現できなかった、文学者の肖像写真・原稿、図書などの文献の写真は、教育現場で歓迎されるはずなので、積極的に増やしていきたい。これによって、もっとも信頼性の高い、総合的なデータベース事典を目指す。	11,350,000	11,347,128	2023年度に予定していた事業内容について、おおむね滞りなく進行することができた 今年度367枚を公開した「肖像写真」の反響は大きく、継続して追加公開できるように準備を進めている しかしながら、「肖像写真」を優先して進めた結果、「書影・初出写真デジタル撮影」については必ずしも所期の目的を達成することができなかった。撮影資料リストは準備できているので、引き続き、業者への見積りの発注、撮影を進めていく予定である 肖像写真、ならびに書影・初出写真はコンテンツにおいて極めて重要な役割を果たすことになるが、これらの掲載は、貴協会からの助成によって初めて可能になるものであり、あらためて感謝申し上げます	B
2022-3028	教育現場への公開を目指した音声・映像資料デジタル化	公益財団法人 日本近代文学館	日本近代文学館が収蔵している、現在では再生機器が失われてしまっている記録媒体（リールテープや16mmフィルム）の音声・映像資料を教育現場への公開を目指して、デジタル化を行う。デジタル化後、学校教育などで活用できる優先順位を考慮し、その内容を確認してから可否を検討、その後著作権処理を行うという進行を予定。著作権の許諾が取れた資料から、教育現場への利用を呼びかける。	5,200,000	2,873,160	大量の著作権者不明のものがあり、今後、裁定制度を用いての公開への作業が必要と判明した。そのため、著作権謝礼の支払いまで進行ができなかった	B

2023年度共通目的事業 実施事業一覧

一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）

<事業評価>

評価項目を確認した合計点数に応じて3段階で評価を記載（評価項目は本一覧の最終ページ参照）

合計点数が10点：A 合計点数が8点：B 合計点数が8点未満：C

【助成事業】

管理 No.	事業名	申請者名	事業概要	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業報告	事業評価
2022-3035	第32回新人シナリオコンクール	協同組合日本シナリオ作家協会	昭和25年創設の日本最初のシナリオコンクール「新人映画シナリオコンクール」と昭和37年創設の「新人テレビシナリオコンクール」を平成4年に統合し、優秀な新人脚本家の発掘と育成を目的として運営し、数多くのプロ作家を輩出してきた。また映像作品の根幹を成す脚本を執筆する脚本家を発掘・育成することで映像文化全体の発展に寄与し、著作物創作の振興によって文化芸術の振興や普及を行うことも目的とする。	2,100,000	2,100,000	<p>本事業は前年度までは、第一次審査から第三次審査までの各審査で1作品につき1名が審査をしていたが、今回からはより厳密な審査を行うこととして、第二次審査以降は1作品につき2人が審査することを予定していた。ただしそれに伴い費用が増加する見込みであったことから、共通目的事業の助成を申請させていただいたが、助成をいただけて増加する審査料と審査作品の輸送料に充てることで、予定どおりより厳密な審査をすることができた。</p> <p>その結果、第二次～第四次審査については、例年の約3倍の作品数を審査できた（第二次審査271篇（前年108篇）、第三次審査142篇（前年37篇）、四次審査18篇（前年0篇））。受賞作品の中には、第三次審査で1人が「落選」、1人が「通過」の採点をして審査通過としたものもあり、今回の審査方法の変更が、優秀作の取りこぼしを避け、功を奏した結果となった。</p> <p>なお、2023年度は授賞式を滞りなく実施できた。</p>	B
2022-3037	年齢別絵本ガイド「いくつのえほん」	日本出版販売株式会社	本事業では、絵本の魅力を伝え、絵本選びに悩んでいる人々のサポートを行うため、対象年齢別に絵本を紹介するガイド冊子を作成している。ガイド冊子はパネルやPOPと共に全国約1,200店舗の書店に無料配布されるほか、子育てを支援する施設・自治体、全国の図書館、大学の授業でも活用されており、子どもが創作に触れる機会を提供している。	2,564,000	868,630	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度実施した際と同規模の1,200書店での小冊子頒布を実施したため。 ・子育てを支援する施設や全国の図書館の要望に応え、個別でガイド冊子を送付したため。* *前年度まで1,000部を超えるガイド冊子の提供希望は断っていたが、助成を受けたことにより、今年度から提供が可能になった。 ・住友生命健康財団が実施する「スマセイおはなしひろば」に、5,000部を無償提供。参加幼稚園・保育園の児童及び保護者に幅広く提供ができた。 	B
2022-3038	書店員が選ぶ絵本新人賞	株式会社中央論新社	絵本を通じて、子どもたちに幼いころから活字、紙の本に親しんでもらうことで、子どもの教育、未来の読者や創作者の育成と著作物の振興に貢献することを目指す。賞の創設、作品募集、及び選考結果の告知は、特設サイト等のデジタル媒体や読売新聞紙面で行い、多くの方々に周知する。新人賞にあたる大賞作品は絵本を刊行する。	1,250,000	1,250,000	<p>2022年度に「書店員が選ぶ絵本新人賞」を創設して準備を進め、作品応募から受賞作の決定を経て刊行に至るまで、約2年にわたるプロジェクトでした。初年度ということもあり、模索しながら進めてきましたが、多くの方に参加いただき、受賞作の刊行までたどり着けました。これは、助成事業に採用いただきましたことで、想定外の経費の発生等においても、事業計画を大幅に見直すことなく進められたからです。</p> <p>22年度と23年度にわたり助成頂いたことで予算の精査が進み、来年度以降も継続して本事業に取り組むことができるようになりました。今後、毎年継続して実施することにより、本賞の認知をさらに高め、著作物の振興の寄与に一層貢献したいと考えています。</p>	B
2022-3040	高校生直木賞（第10回）	高校生直木賞実行委員会	直近1年間の直木三十五賞の候補作品を全国の高校生たちで読み、討議を通じて評価し、さらに各校の代表者が一堂に会して議論を重ねることによって「高校生たちの今年の1作」を選出する。そのプロセスと並行して、高校生の「読解力」「語る力」「聞く力」を養成するために実作者を講師に招いて読書会やトークイベントを開催する。	1,410,000	1,410,000	過去最多43校の参加をえただけでなく、本選会、読書会、各種イベント、それぞれコロナ後、久しぶりに対面開催し、作家と生徒のリアルな議論、対話を実現できた。	B
2022-3042	「著作権論文の募集・顕彰・論文集の発行」事業	公益社団法人著作権情報センター	著作権制度に関する論文を募集し、優秀な論文を顕彰するとともに論文集にまとめ、関係機関、関係団体、学識者等に広く配布するとともに、弊センターのホームページで公表する事業である。2022年度は審査委員を選出したうえで審査委員会を開催して、本事業の進め方、顕彰の内容等について検討する。論文の募集・顕彰・論文集の発行等は、改めて助成申請して、2023年度～2024年度に実施する。	1,793,650	1,013,518	長期の中断期間があったにもかかわらず、司法修習生、大学院生、大学生、社会人（いずれも20代から30代）から合計15件の応募があり、論題についても古典的な研究課題からAI等の最先端技術に関する研究課題まで多種多様であったことによるものである。	B
2022-3044	『アニメNEXT_100』プロジェクト公式 日本のアニメ総合データベース「アニメ大全」	一般社団法人日本動画協会	「アニメ大全」はアニメ産業、及びアニメ文化の基盤を歴史的に網羅することによって過去・現在・未来へとアニメの力を繋ぐデータベースとして構築している。本事業の目的は、データの拡充を行うことにより、アニメーション分野に関わる権利者全体の著作物の創作の振興、及び普及を実現し、教育機関における活用促進、及び著作権思想の普及の一翼を担う、著作物総合データベースを構築することである。	20,000,000	20,000,000	事業計画通りの進行が行えている。	B

2023年度共通目的事業 実施事業一覧

一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）

<事業評価>

評価項目を確認した合計点数に応じて3段階で評価を記載（評価項目は本一覧の最終ページ参照）

合計点数が10点：A 合計点数が8点：B 合計点数が8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	申請者名	事業概要	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業報告	事業評価
2022-3046	第80回全国舞踊コンクール	株式会社中日新聞社東京本社（東京新聞）	1939年に始まり、創作舞踊、バレエ、現代舞踊、邦舞、群舞、児童舞踊の全6部門年齢別13部に全国から約850組、1200人が参加する国内で最も歴史があり、最高レベルのダンスコンペティション。著名な舞踊家やコレオグラファーを数多く輩出しており、「舞踊の著作物」の表現者・創作者の育成、日本国内の舞踊芸術の発展に貢献している。上位入賞者の演技ハイライトやインタビューを公式ホームページ、動画配信サイトなどで紹介し、上位入賞者によるアンコール公演も実施する。	2,930,000	2,930,000	事業申請時に想定していた来場者数700人を超える858人の来場者があり、より多くの方にコンクールの上位入賞者および舞踊芸術の成果を紹介することが出来た。審査が目的のコンクールと異なり、舞台成果・発表の場の公演として、多くの来場者を集められたことで舞踊芸術に関する著作物の普及の一助になったと考えており、出演者に対しても、今後の舞踊芸術への意欲向上にもつながった。	B
2022-3048	J P I C 読み聞かせ講座 絵本の魅力と大切さを届けよう！	一般財団法人出版文化産業振興財団	集団での読みきかせに大切な基礎や実演を交えたワンポイントおよび、絵本の創作、著作権についても幅広く学び、子どもたちに豊かな読書体験を届ける担い手の養成を目的とする事業。著作権の概要、読みきかせに関連する保護と侵害、著作物の利用申請について分かりやすく編集した冊子を作成し、テキストのひとつとして配布するほか、主催財団の登録会員にも配布・配信し、子どもに本を届ける方々の知識向上に役立てる。	6,132,670	4,382,670	昨年の令和4年度に、SARTRAS助成を受けて作成した『おはなし会・読みきかせ著作権ハンドブック』を、今年度、講習会参加者に副読本として配布し、著作権について講義内で伝えられたことは、読みきかせに関わる参加者には知りたいたい情報であったとたいへん喜ばれました。講義外の休憩時間などにも、本人に引き寄せた事例の問い合わせなどもあり、著作権の大切さ、守るべきものであるという気づきのきっかけを与えられたと考えます。加えて、学びを深める編でおこなった参加者同士のグループワークでは、少人数に分かれて読みきかせの実践をしたのち、自身の活動内容や絵本について情報を交換する時間としました。同じ志を持った新しく出会う者同士、刺激を与えあい、子どもに本を手渡す活動の糧になったと前向きな声が多く届きました。	B
2022-3051	視覚障害者等への読書活動推進事業「読書バリアフリーセミナー」	公益財団法人 文字・活字文化推進機構	視覚障害者等の読書活動に必要な不可欠な「アクセシブルな書籍」の製作及び提供には、著作権（図書館の障害者サービスにおける著作権法第37条第3項に基づく著作物の複製等に関するガイドライン等）への理解が求められる。本事業では「読書バリアフリー法」の普及及びあらゆる人々の読書活動の充実を図るべく、障害者の読書支援、読書バリアフリー法と著作権のあり方を伝えるフォーラム・セミナーを開催し、アーカイブ動画やパンフレット等での普及活動を行う。	2,000,000	2,000,000	本事業の成果をまとめた普及・啓発リーフレットを学校図書館等関連団体へ発送したのち、数十件の団体から約400部の追加請求がありました。学校図書館や司書等、関係者の間での研修会・勉強会に活用いただくなど、良い反響をいただいています。アーカイブ動画は公開から現在までの約3カ月間で1,200回再生されており、当YouTubeチャンネルの中では関心の高い動画となっています。引き続き多くの方に周知できるよう、今後も広報を続けて参ります。	B
2023-3001	2023年第29回日本管楽合奏コンテスト	公益財団法人日本音楽教育文化振興会	本コンテストは、管打楽器及び吹奏楽の研究・調査・啓発により音楽文化の向上を図り、小・中・高の音楽教育の充実・発展に寄与するとともに、合奏活動を通じて著作権等への理解を深めることを目的に、全国大会では毎年約10,000名の参加を得て実施している。小学生部門に加え中・高校生は編成規模に応じて部門を設け、各部門ごとに最優秀賞・優秀賞を選定し、各部門の最高位である最優秀グランプリ賞受賞団体には文部科学大臣賞が授与される。	6,500,000	6,500,000	これまで約3年にわたりコロナ禍の影響を受け、小学生・中学生・高校生にとっては仲間との練習や合奏など楽器演奏をする機会が減り、大変辛い時期でありましたが、その環境を乗り越え、今回開催の運びとなりました。協賛収入が減少する一方、物価高による支出費用を要する等運用資金が厳しい状況にありましたが、助成により、以前にも増して充実した体制でコンテストを実施することができました。予選審査を通過した参加団体は、北は北海道から、南は沖縄県まで総勢198の団体が喜び勇んで全国大会に集まりました。参加団体の演奏には、素晴らしい感動を体一杯使って表現され、聴いている方々の心に響く豊かな音楽性に富んだ演奏であり、日頃の練習成果を最大限発揮できる場を無事に提供することができました。	A
2023-3002	第33回兵庫県学生ピアノコンクール	株式会社神戸新聞社	兵庫県学生ピアノコンクールは1991年より33年続く県内最大のピアノコンクールで、「県コン」の愛称で親しまれています。これまでのべ3万人以上の学生が演奏し、毎年約1,000人がコンクールに参加、音楽に関わる人材育成の場として定着しています。また、音楽系の大学を目指すための登竜門といわれ、過去の参加者からはプロのピアニストを多数輩出しています。	1,650,000	1,650,000	参加者の減少に反比例するかたちで、地域にとらわれない県下各地からの入賞が相次ぎ反響を得ました。また予選の評判から本選会場にも例年以上の聴衆が集い、結果を見守ることができました。	A
2023-3004	第81回全国舞踊コンクール	株式会社中日新聞社東京本社（東京新聞）	1939年に始まり、バレエ、現代舞踊、邦舞、児童舞踊、群舞、創作舞踊の全6部門年齢別13部に全国から約850組、1200人が参加する国内最高レベルで、最も歴史があるダンスコンペティション。著名な舞踊家やコレオグラファーを数多く輩出しており、「舞踊の著作物」の表現者・創作者の育成、舞踊芸術の発展に貢献している。上位入賞者の演技ダイジェストやインタビューを公式ホームページ、動画配信サイトなどで紹介し、上位入賞者によるアンコール公演も実施する。	2,700,000	2,700,000	前回比で大幅なライブ配信へのアクセス増があり、本コンクールの取り組みが定着してきたことがうかがえ、アクセス数の増加量は想定以上の数字となった。また、インタビュー映像についても過去の入賞者の映像をアーカイブすることが、本コンクールの入賞を経たダンサーの記録として重要な資料となると考えている。ライブ配信やインタビュー映像といった動画配信には必要があることを再認識するとともに、昨年に引き続き将来の舞踊界を担う踊り手を広く紹介することができた。	B

2023年度共通目的事業 実施事業一覧

一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）

<事業評価>

評価項目を確認した合計点数に応じて3段階で評価を記載（評価項目は本一覧の最終ページ参照）

合計点数が10点：A 合計点数が8点：B 合計点数が8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	申請者名	事業概要	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業報告	事業評価
2023-3005	教科書定番教材4作品の番組制作と公開	公益財団法人日本近代文学館	これまで5年にわたり開催してきた企画展「教科書のなかの文学／教室のそと文学」の実績を踏まえ、教科書定番教材4作品（芥川龍之介「羅生門」、中島敦「山月記」、森鷗外「舞姫」、夏目漱石「こころ」）に関し、教室で放映して作品への理解を深めることのできる教材番組を、新たに編集・制作する。20～30分の番組を想定し、教育現場へ無償で貸し出す（オンライン及びDVDを予定）。NHKエデュケーショナルと合同での制作が実現し、NHKアーカイブ所蔵の映像も使用可能となった。2023～24年度では、森鷗外「舞姫」、夏目漱石「こころ」を制作、公開。	9,100,000	9,096,160	「羅生門」では、山梨県立文学館とこおりやま文学の森資料館から、「山月記」では、神奈川近代文学館から、全面的な協力を得られ、貴重な資料画像・映像を数多く使用することができた 両作品を通じて、NHKアーカイブが所蔵する画像・映像を使用することができ、NHKエデュケーショナルの高い専門性が発揮され、イラストや地図などの視覚的なしかりが入った結果、全5章の映像教材の質がさらに高まったと考えている なお、ナレーションは、元NHKアナウンサー、渡邊あゆみ氏にご担当いただいた	A
2023-3011	第76回中部日本高等学校演劇大会	株式会社中日新聞社名古屋本社	高校生の演劇活動の支援と普及のため1948年に始まった高校生の演劇大会。中部6県（愛知、三重、岐阜、石川、富山、福井）で行われる各県大会の上位校を対象としており、本大会の最優秀賞「文部科学大臣賞」を受賞した高校は全国大会に出場することが出来る。大会最終日には、演劇における多様な表現方法を学ぶための研修会も行われる。	540,000	540,000	第72回大会(2019年)ぶりに新型コロナウイルスの制限も無く、大会を開くことが出来た。しばらく無観客だった客席は保護者や生徒など多くの人で埋め尽くされ、各校の上演が終わると大きな拍手で会場が包まれた。プログラムも多くの方の手に渡り、大会の意義の認知・普及や文化系の学生の応援に繋がったと感じる。	B
2023-3013	「教育機関のための著作権コンサルテーションセンター」設置計画	千葉大学アカデミック・リンク・センター	教育機関のための「著作権コンサルテーションセンター」を設置し、1）著作権制度の理解、促進に資する支援システムの構築、2）教育機関内においてそのような理解を促すことができる人材の育成、3）教育・学習活動と著作権制度を適切に橋渡しできる人材による教育機関への高度な支援を実現する。これにより、教育機関及び教育関係者のみならず、権利者全体の利益にも資するものである。	15,520,000	10,352,233	本事業申請内容における初年度の計画について、関連団体等との連携の開始、普及啓発活動、調査研究、回答支援システム等検討・開発を実施しており、今後の成果に繋がる活動を実施したため。	B
2023-3014	「新しい子どもの歌」プロジェクト	一般社団法人全日本児童音楽協会	当会は、未来を担う子どもたちへ新しい音楽を提供する作詞家・作曲家団体である。当会の活動の中心である「新しい子どもの歌プロジェクト」は、作詞コンクール、コンサート、楽譜出版から成る事業であり、幼児・児童・生徒を対象とした「子どもらしい歌・子どもが喜んで歌える歌」の創作・普及、ならびに、子どもたちが「新しい子どもの歌」に触れて言葉と音楽の素晴らしさや面白さを学ぶ機会を提供することを目的としている。	500,000	500,000	2020年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、コンサートの観客動員が100人を下回るなど苦しい状況が続いていたが、新型コロナウイルス感染症の「五類」への分類変更にもなう文化芸術活動の再活性化の効果もあり、当日は160名を超える来場者があった。前年度と比較しても140%程度観客動員が伸びており、当協会が世に送り出している「子どもの歌」への関心の高まりが読み取れた。第3回新しい子どもの歌作詞コンクールにも大きな反響があり、受賞者から新規の入会者を獲得した。	A
2023-3016	高円宮杯第75回全日本中学校英語弁論大会	株式会社読売新聞東京本社	全国の中学生を対象にした自作の英語スピーチコンテストで、その内容や表現方法などを競う。優勝者には大会名誉総裁の高円宮妃久子殿下から「高円宮杯」が授与される。1949年に創設され、日本の未来を担う国際的な人材育成を目標に70年以上にわたって開催し、各界に多くの人材を輩出している。決勝大会に出場した約30人の優秀スピーチは、動画撮影・編集してインターネットなどで広く公開し、英語著作物の振興及び学校現場での英語教育に役立てる。	10,000,000	5,698,400	本大会は、2020年に新型コロナウイルス感染症による開催中止、その後もビデオ審査や参加者を絞った形での変則的な運営を続けてきた。従来の形式で開催されないことによって、各地の生徒や指導者たちの大会参加へのモチベーションが低下する恐れがあった。今回はコロナ流行前と同規模の大会として実施することに加えて、成績優秀者のスピーチ動画を無償公開する試みを始めて実施した。中学生のハイレベルの英語スピーチの映像というこれまでにない著作物を世に出すことで、英語習得を志す生徒だけでなく、スピーチ指導方法に悩む教諭らが数多く閲覧している。オンラインセミナーにも大きな反響があり、今後の大会参加者のレベルアップにとどまらず、英語教育全体の底上げにつながるが予想される。	B
2023-3017	第13回えひめこども新聞グランプリ	株式会社愛媛新聞社	県内の小学校、特別支援学校小学部の全児童を対象とした新聞コンクール。A2サイズの応募台紙に、各児童が自由にテーマを考え、取材し、手書きのオリジナル新聞を制作する。 応募は各学校から市町の教育委員会経由。審査委員は小中学校長らで構成。地区審査と最終審査を経て、グランプリ（最優秀賞）などを決定する。入選発表は新聞紙上に。表彰式や県内3地区での作品展を開催し、新聞社HPでも入選者作品を公開。	1,750,000	1,748,932	2020年度はコロナ禍で事業を中止しました。21年度の第11回以降、応募数はコロナ前より落ち込んでおりますが、県内児童数の減少がありながら、応募数は微減にとどまっています。入選作品は上級生になるにつれ、着眼点や取材力、文章力、レイアウトなどが上進しています。	A
2023-3021	「『5分でできる著作権教育』Webサイトの改訂・充実」事業	公益社団法人著作権情報センター	校種・教科毎に、小・中・高等学校の児童生徒に授業中のわずかな時間で著作権について教えることができる指導内容を紹介した事例集、教員が知っておくべき著作権Q&A等を掲載した『5分でできる著作権教育』Webサイトを、学習指導要領の改訂、GIGAスクール構想、著作権法改正等を踏まえて改訂し、コンテンツの充実を図る。	1,467,000	1,429,107	検討会での検討の結果、当初予定していた現行Webサイトの修正ではなく、より教育現場で使いやすい全く異なる新たなWebサイトを作ることとし、その構成や内容の検討も進んだものの、新たなWebサイトの公開は2024年度になることから記載の評価とした。	B

2023年度共通目的事業 実施事業一覧

一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）

<事業評価>

評価項目を確認した合計点数に応じて3段階で評価を記載（評価項目は本一覧の最終ページ参照）

合計点数が10点：A 合計点数が8点：B 合計点数が8点未満：C

【助成事業】

管理 No.	事業名	申請者名	事業概要	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業報告	事業評価
2023-3022	「著作権情報センター資料室の蔵書の充実、利用者サービスの拡充」事業	公益社団法人著作権情報センター	誰でも利用できる施設として一般公開している著作権情報センター資料室の、国内外の著作権関連図書資料の一層の充実を図り、利用者サービスの拡充として2022年12月から開始した図書資料の複写サービスを継続する。また、蔵書の増加を受けて蔵書点検を行い、書架を整理して、利用者がより利用しやすい配架を行う。	7,279,000	7,130,910	本事業により実施することとしていた、(1)専任の司書を配置し、リファレンスサービス、複写サービス等を行うこと、(2)有識者委員で構成された図書選定委員会を開催し、資料室に新たに蔵書すべき外国図書、国内図書を選定し、蔵書を進めたこと、(3)蔵書点検、書架整理、書架に収まらない蔵書の外部倉庫への預け入れを行うことをいずれも実施することができた。	B
2023-3024	日本プロ音楽録音賞	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	本事業は音楽文化と産業の発展の一翼を担う録音エンジニアが制作し応募した音楽録音作品について、エンジニアが有する音楽に対する感性、技術力等を評価することにより、授賞対象優秀作品および最優秀作品並びにベストパフォーマンス賞を選定し、これに携わり制作を担ったエンジニアおよびベストパフォーマンスのアーティストを顕彰することでエンジニアの技術の向上と次世代エンジニアの発掘を図ることを目的とし、表彰を行うものである。	1,500,000	720,071	今回の日本プロ音楽録音賞ではレコーディング専門誌やオーディオ誌に、受賞作品に関わったエンジニアやアーティストに関する記事が掲載され、音楽録音制作に対するエンジニアやパフォーマンスの拘り等が取り上げられることで、レコーディングという仕事の創造性や存在意義への理解が高まった。	B
2023-3025	「第91回全国盲学校弁論大会全国大会」	株式会社毎日新聞社	盲学校生徒を対象に1928年から続く弁論コンクールで、今年度は第91回。視覚に障害のある学生に自らの考えを言葉にまとめ相手に伝える重みを体験してもらうとともに、その思いを社会に伝え障害者理解につなげるのが大会の狙い。共に学ぶインクルーシブ教育が進展する中、各地の盲学校は地域の学校に通う視覚障害児童・学生を支援しており、そうした学生も交えて運営する方法を探りながら歴史ある大会の持続可能性を考えている。	3,000,000	2,271,775	全国7地区すべてから、各地区大会を運営する現場の教員のみならず集まっていたことが非常に有意義でした。普段なかなか知り得ない現場の実態、負担を知り、また、時代が大きく変化する中で、今の盲学校生らが大会をどのようにとらえているかなど、細やかなニュアンスまで肌感覚で共有することができ、今後の大会運営のさまざまなブラッシュアップのためのアイデアにつながる大きな材料を得ました。 各地区から集まってもらうことは、まもなく100年を見据える本大会の歴史の中でも初の試みで、教員の方々からも「互いに知らなかったそれぞれの運営方法や工夫、指導の実態などを知ることができた」と感想をいただき、「貴重な機会をいただいた」と口をそろえて言っていました。何より、今後の大会の継続に向けて、「共生社会」実現への思いを共有し、一体感を強めることができたと感じています。これは、想定していた以上の成果でした。 初めて動画を撮影しておけたことも、予想以上に重要なことでした。これまで動画配信に取り組んでみたいという案はありながら、なかなか形にできずにいましたが、実際に手元に動画データがあることで、どういったことができるか、したいのかと、各方面と具体的な話し合いができ、アイデアを詰めていくことができています。この動画データのおかげで、次年度以降の「オンライン配信」実現に向けた取り組みのベース作りをすることができました。 弁論集をデータCDでも発行し、一般の方々へ配布すると呼び掛けたことにも効果を感じました。「出場者のメッセージに感銘を受けた」という声をいただくことも多く、そこまでの反響は想定していなかったことでした。「共生社会の実現」への共感を広げるという、大会の根本にかかわる大きな目標へと、少しずつでも近づけているという手応えを感じることができました。	B
2023-3026	小学生がえらぶ！"こどもの本"総選挙	特定非営利活動法人こどもの本総選挙事務局	全国の小学生に「今まで読んだ中で1番好きな本」を投票してもらい、ベスト10を中心に投票結果を広く発表する読書推進イベント。全国の小学校・書店での結果発表を通じ、こどもたちに新しい本との出会いを提供する。過去3回の実施でのべ50万人以上の小学生が投票に参加している。	10,000,000	10,000,000	少子化、書店数の減少など、こどもの本の外部環境が年々厳しくなっていく中で、2年前とほぼ同規模の参加者を集めることができたため。特に、参加校数については前回を上回ることができ、その点は予想以上の成果です。一方、メディアでの露出・店頭での展示は、数としては前回を下回っているため、総合的な自己評価としましては、予想通りの成果があったとさせていただきます。	B
2023-3027	日本児童文学者協会ホームページ改定（著作権ガイド改定を含む）	一般社団法人日本児童文学者協会	協会のホームページでは、講座やセミナーなどの告知、作品募集、会の出版物の案内などと合わせて、会員に配布していた「児童文学 著作権ガイドブック」の全編を掲載するなど、著作権についての情報を積極的に発信してきた。今般、ホームページを全面改定し、発信の機能の向上を図ると共に、ガイドブックの内容も、児童書をめぐるメディア環境の変化に対応するべく一新する。	2,458,629	2,458,629	リニューアル後、ホームページへのアクセス数が飛躍的に増加した。	B

2023年度共通目的事業 実施事業一覧

一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）

<事業評価>

評価項目を確認した合計点数に応じて3段階で評価を記載（評価項目は本一覧の最終ページ参照）

合計点数が10点：A 合計点数が8点：B 合計点数が8点未満：C

【助成事業】

管理 No.	事業名	申請者名	事業概要	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業報告	事業評価
2023-3028	本屋大賞	特定非営利活動法人本屋大賞実行委員会	全国の書店員が年に一度「この本は絶対に多くの人に読んで欲しい」と思った本を投票し、本屋大賞として発表。人々の読書活動に寄与し、多くの著作者や著作物を知ってもらうきっかけになることを狙い、幅広く出版業の発展に寄与する。さらに今年は20周年記念事業としてこれまでの受賞作を全国書店でフェア展開、読者の手引きとなる過去ノミネート約200作品を掲載した小冊子を作成し、過去の著作物が再び脚光を浴びる機会を作り出す。	3,000,000	2,161,038	<p>・コロナにより、3年間書店員を会場に招いて開催することができなかったが、今年は漸く全国から書店員が発表会場にお祝いに駆けつけてくれた。改めて著作物である本の大切さ、素晴らしい著作者である作者とともに会場で確認しあうことができ、大変有意義であった。</p> <p>* 参考：昨年来場総数33人（コロナ禍のた人数を絞った着席スタイルで行った際の人数）。 今年は書店員・出版関係者・取材マスコミ含め、約450名が来場となりました。</p> <p>・選考に参加した書店員の投票数は第1次投票が471書店615人（前年比12人減）、第2次投票が333書店422人（前年比30人増）。第1次投票こそ昨年から減ったが、全国の書店数が激減している状況を鑑みると第2次は驚異的な増加。全国の書店員の同賞に対する期待とモチベーションはますます高まっているといえる。</p> <p>・20回記念フェアを開催することで、今年度作品を含めた過去20回の大賞すべての著作物の利益機会を創出することができた。</p>	A
2023-3030	「著作権制度の理解に資する映像資料の制作、提供」事業	公益社団法人著作権情報センター	初等中等教育段階の児童生徒や彼らを指導する教員に著作権制度の内容やその重要性を理解してもらうことを目的に、授業の中で視聴することができる映像資料を制作し、動画配信サービスにアップロードして何時でも利用できる形で提供する。同時に、映像資料の内容や活用方法を解説するWebサイトを制作し、授業の中で活用することができるワークシートや教師用指導案等の資料も提供する。	22,973,000	22,872,476	小・中・高等学校の教育現場で活用していただける優れた映像資料やホームページを制作・提供できたと自己評価しているが、3月19日に公開したばかりであり、上述のとおり周知活動による広まりは2024年度以降となることから記載の評価とした。	B
2023-3031	第32回国際高校生選抜書展(書の甲子園)	一般財団法人毎日書道会	我が国の伝統文化である書道を継承・発展させる一環として、1993年から毎年開催されている国内外の高校生を対象にした最高峰の公募書道展である。延べ65の国・地域から応募実績があり、個人賞に文部科学大臣賞、外務大臣賞、大阪府知事賞など、団体賞には全国優勝1校などを選出し、表彰する。 日本の書道芸術を幅広く発信し、国際交流にも貢献する稀有な展覧会。「書の甲子園」の愛称で知られる。	5,000,000	5,000,000	著作権について「出品のお願い」の「留意点」として記載したことで、認識を広めることができました。 ただ生徒は無論、指導者への継続的な取り組みの必要を感じており、今後の継続的かつ積極的な啓発に取り組みを通じて、成果が生み出せると感じております。	B
2023-3032	多様化する教育現場を踏まえた著作権教育教材の活用推進	一般社団法人大学ICT推進協議会	2022年度に開発した著作権教育教材（教員向け冊子・学生向け動画）を、教育現場における多様な構成員に対し活用するために、教材の英語化ならびに動画への字幕付与を行う。 また、教員を対象とした理解状況把握のための著作権クイズ（解説含む）と学生向け動画の字幕ON/OFF機能を有するウェブ環境の整備を行う。 さらに、初等中等教育課程の教員に対し、教員向け冊子の配布による広報活動を行う。	8,883,120	8,868,232	開発した教材については大学のみならず初等中等教育段階の教職員からの引き合いが多く、外部からの評価が高いと考える。さらに当初計画では、学生用動画の日本語字幕付与はできる範囲で行う計画であった（2023年度制作動画への字幕付与は期間的に難しい可能性があった）が、追加映像を含めた字幕付与を全動画について行った。これは、上記した通り、聴覚障害の学生も視聴可能および健常の大学生に対する著作権についての、理解向上に資する取り組みであり、計画以上と評価する。加えて、動画用サイトのソースはGitHub上で公開可能な状態としており、利用者の側で、本教材の内容を構築可能な設計とされていることも、本教材の展開可能性を広げるものである。 各成果物の内容を、実際にご確認ください幸いです。	A
2023-3033	第4回SOLASIDO「詩のあん唱」コンクール	公益社団法人全国学校図書館協議会	全国の小学生に、お気に入りの詩を1編、暗唱している動画を募集する。 個人でも、グループや団体でも応募できる。朝日小学生新聞、当会のWebサイト、ポスターなどで呼びかける。公式ホームページ内の応募フォームに登録し、スマートフォン、デジタルカメラ、ビデオカメラで撮影した動画を180秒までに編集してアップロードする。	4,600,000	4,600,000	前述の通り、御協会の助成金のおかげで多角的な広報活動が功を奏し、応募者数を80%以上増やすことができたから。	B
2023-3036	JPAL挿絵美術展ー日本出版美術家連盟75年の軌跡	一般社団法人日本出版美術家連盟	日本で最も古い挿絵の職能団体である日本出版美術家連盟75周年にあわせた挿絵美術の展示会。 出版物の原画や出版美術の歴史や出版物も含めた展示である。併せて美術体験やワークショップや著作権に関するイベントを予定。	3,000,000	3,000,000	美術館の事情で会場変更をしたため、予算の割り振りや実施内容の変更をせざるを得ない中、予定通り展示、ワークショップなどのイベントを高い水準で行うことができた点。従来の展示の8倍の2263名の来場があり、日本の挿絵文化を伝える上で歴史的な啓蒙が出来たと思われる点。	A

2023年度共通目的事業 実施事業一覧

一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）

<事業評価>

評価項目を確認した合計点数に応じて3段階で評価を記載（評価項目は本一覧の最終ページ参照）

合計点数が10点：A 合計点数が8点：B 合計点数が8点未満：C

【助成事業】

管理 No.	事業名	申請者名	事業概要	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業報告	事業評価
2023-3037	第68回こども県展（令和5年度千葉県児童生徒美術展覧会）	株式会社千葉日報社	<p>絵画やデザインなどの表現は、人間の成長にとって欠くことのできないものであり、人間形成の基礎・基本となるものであるといわれる。</p> <p>こども県展は、次代を担うこどもたちの豊かな心と、個性や創造性を育むことを目的として開催してきた。千葉県教育委員会をはじめ関係各団体の後援により、長い歴史と伝統がある。さらに内容の充実に努め、美術教育の振興発展に寄与することを目的としている。</p>	4,200,000	4,200,000	<p>前回展、前々回展と比較して出品数が減少した。今回展から電子決済システムを開発・導入した。初回ということもあり、申込が間に合わない等、若干の混乱が生じたことが一因と考えている。また、同システム導入に関する経費が発生した。やむなく出品料の値上げに踏み切り、昨年度と比較し収入は微増したが、経費増大により運営に支障を来しかねない状況である。今後はシステムに関する告知等を充実させ、各方面のブラッシュアップを図り、従前と同等もしくはそれ以上の出品数を目指したい。本事業を継続することにより、県内美術教育のさらなる発展に寄与し、文化振興を推進したいと考えている。</p>	B
2023-3039	第16回書道パフォーマンス甲子園（全国高等学校書道パフォーマンス選手権大会）	書道パフォーマンス甲子園実行委員会	<p>高校書道部による書道パフォーマンスの日本一を決定する大会である。書道パフォーマンスは、1チーム12人以内の選手が音楽に合わせて縦4m×横6mの紙に制限時間6分間の中でダンスなどの趣向を凝らしたパフォーマンスと共に、自分達の伝えたい思いを詩に込め、様々な書体を使って作品を作り、書や演技の美しさなどを競い合う。優勝には文部科学大臣賞を授与する。</p>	10,000,000	10,000,000	<p>助成事業により導入したLEDモニターは、非常に多くの方から「会場内の雰囲気が見違えるようにスケールアップした」との声とともに、出場校のアンケートから「パワーアップした会場に鳥肌がたった」との感想があったことは予想を超える大きな成果です。また、過去最高の来場者をスムーズに受け入れることができた最大の要因は、助成金を活用して仮設スタンドを増設していたことだと考えています。仮設スタンドの増設は、大勢の来場者を安全に受け入れることができた上に、観覧席が演技場を四方から囲むレイアウトとなったことで、様々な角度から選手の演技を見ることができるようになり、観覧の楽しみ方が増すなどこれまでにない大会の魅力アップにつながったものと考えています。</p>	A
2023-3040	2024年 第26回日本ジュニア管打楽器コンクール	公益財団法人日本音楽教育文化振興会	<p>将来の我が国における管打楽器演奏の発展に貢献する人材の育成や教育現場における管打楽器教育の啓発・普及を図り、著作権等に対する理解を深めることを目的に、毎年約3,000名の全国の小学生・中学生・高校生が参加して実施される音楽コンクールである。小・中・高の各コースに、ソロ部門（12種）とアンサンブル部門（3種）があり、ソロ部門の最も優れた演奏者には文部科学大臣賞（小・中・高に各1枚）が授与される。</p>	4,000,000	4,000,000	<p>ここ数年に及ぶコロナ禍の影響を受け、小学生・中学生・高校生にとっては楽器の練習や演奏する機会が減り大変辛い時期でありましたが、その環境を乗り越え、今回より有観客での本選考会開催となりました。しかしながら協賛収入が減少する一方、物価高による支出費用を要する等運用資金が厳しい状況でありましたが、助成により、以前にも増して充実した体制でコンクールを実施することができました。予選通過した参加者は、北は北海道から南は沖縄県まで一堂に会し、これまでご指導頂いた先生方や支えてくれた家族への感謝の気持ちを大切に大舞台上に立つ若人たちは、元気いっばいに豊かな感性を持った音楽性に富んだ演奏であり、日頃の練習の成果を最大限発揮できる場を無事に提供することができました。また今回から本選考会アンサンブル部門の演奏の模様をインターネットによるライブ配信を導入し、各地方からでも演奏の模様をご覧頂けることで参加者関係者及び保護者からは喜びのお声掛けを頂きました。</p>	A
2023-3041	中学・高校・大学ピリオパトル全国大会	株式会社読売新聞東京本社	<p>全国の中学生、高校生、大学生を対象にした書評合戦形式のコンテストで、聴衆が最も読んでみたいと思った「チャンプ本」を決める。2010年11月に東京で大学生大会を初めて開き、14年度から高校生大会、16年度から中学生大会も開催している。各大会は読売新聞東京本社が事務局を務める活字文化推進会議が主催し、文部科学省や各都道府県教育委員会などの後援を得て実施している。</p> <p>大会の様子は読売新聞本紙のほか、動画撮影・編集してインターネットなどで広く公開し、良書の魅力を広く伝えるとともに、著作者の創作意欲の向上につなげることで、著作物の普及・振興および活字文化の振興に寄与する。</p>	10,000,000	10,000,000	<p>全国大会3大会とも、出場者のレベルが高く、満席に近い状態で聴衆の反応も良かった。「同じ中学生とは思えない発表ばかり。朝読書以外にも本を読みたくなった」（中学1年生）、「ゲスト作家のトークショーが、期待を裏切らない軽快なお話で、本当に楽しかったです」（中学校教員）など、生徒・学生から教諭や司書教諭などの学校関係者、一般観客まで幅広く大会を評価する意見が寄せられた。専門業者によるニコニコ動画の生中継、隙間時間を削除するなどして見やすく編集した動画は好評だった。</p>	B
2023-3042	読書教養講座・活字文化公開講座	株式会社読売新聞東京本社	<p>全国各地の大学を会場として、一般市民や学生を対象に読書の魅力を伝える無料公開講座を開催する。著名な作家や学者などを招いて自身の創作活動や読書の楽しみ方などを語ってもらい、パネルディスカッションや参加者との対話を通じて活字文化の振興を後押しする。読売新聞社が事務局を務める活字文化推進会議と各大学が主催する形で、2005年に始まり、これまでに講師を務めた作家らは延べ150人を超えている。講座の様子は読売新聞紙面で詳報するほか、講座の様態を撮影・編集した動画をインターネットで広く無料公開し、読書を通じて著作物の振興・普及に寄与する。</p>	2,600,000	2,347,950	<p>温又柔、千早茜、桜木紫乃、乗代雄介という、いずれも当代の人気作家4氏を講師に招くことができた。大学教授の解説も、平易かつ深みがあり、学生たちと作家の質疑応答も活発だった。桜木氏から「やっぱ大阪、好きやなあ」とのメールが主催者側に寄せられるなど、作家と読者との交流を生む、聴講者の満足度が高い内容となり、記事は読売新聞の全国版に掲載された。専門の業者が作成した動画も見やすかった。</p>	B

2023年度共通目的事業 実施事業一覧

一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）

<事業評価>

評価項目を確認した合計点数に応じて3段階で評価を記載（評価項目は本一覧の最終ページ参照）

合計点数が10点：A 合計点数が8点：B 合計点数が8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	申請者名	事業概要	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業報告	事業評価
2023-3045	しまね小中学生新聞コンクール	株式会社山陰中央新報社	テーマを決めて自分だけの新聞をつくるコンクール。専用紙に絵やイラスト、写真などを使って制作。審査員は、県教育委員会、県教育研究会、山陰中央新報社ほかで構成。各学年の最優秀、優秀、優良、入賞が決まる。優秀な作品は新聞紙面で紹介。 また、イオン松江、出雲、益田店で作品展を行う。	1,000,000	1,000,000	応募用紙や参加賞も原材料の高騰で値上がりしている中、県内小中学校に定着しているコンクールを安定的に継続することができた。	B
2023-3046	第33回新人シナリオコンクール	協同組合日本シナリオ作家協会	昭和25年創設の日本最初のシナリオコンクール「新人映画シナリオコンクール」と昭和37年創設の「新人テレビシナリオコンクール」を平成4年に統合し、優秀な新人脚本家の発掘と育成を目的として運営し、数多くのプロ作家を輩出してきた。 また映像作品の根幹を成す脚本を執筆する脚本家を発掘・育成することで映像文化全体の発展に寄与し、著作物創作の振興によって文化芸術の振興と普及を行うことも目的とする。	2,403,357	2,403,357	本事業は前年度の審査方法を継続し、さらに近年のコンクールの動向を踏まえ、新たにオンラインでの応募を開始することを予定していた。それに伴い費用が増加する見込みであったことから、共通目的事業の助成を申請させていただいた。助成をいただき、審査料とオンライン応募に伴うホームページの改修費に充てることで、前年度を上回る応募の増加とより厳密な審査の実施、さらに運営側の応募作品受付時のデータ入力等の負担軽減にもつなげることができた。	B
2023-3050	デジタル脚本アーカイブズの構築（英語版追加）およびオーラルヒストリーの実施	一般社団法人日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム	普段目にすることが少ない「脚本」を授業や校内イベント等で有効活用して頂くため「デジタル脚本アーカイブズ」試作版を2023年3月に公開。サイトでは昭和期のドラマ脚本350作品を選出し作品紹介のほか、許諾を受けた脚本について全文無償で閲覧できる。 その更新版として、英語版サイトを構築するほか利用者からの質問を受ける双方向性機能等を追加。さらに現在活躍中の脚本家、放送作家へのオーラルヒストリーを実施し公開する。	15,000,000	15,000,000	定期的に検討会議を持つことで、サイトの改修案が広がった。 タグ付けにかなり手間取ったが、期待以上の改修となった。 また2年継続の途中段階にもかかわらず、サイトの英語版サイト試作版が完成した。脚本を手にするのは業界関係者に限られ、国立国会図書館所蔵脚本を閲覧するか脚本集を購入する以外に脚本を読むことは難しいが、ネット公開が実現できたのは著作者団体の協力が大きい。 教育目的として非営利の教育機関に所属する学校関係者からの希望があれば脚本本文を提供できる体制が整っており、授業や文化祭での利用や研究活用も期待できる。 英語版公開により、今後は海外からのアクセスのほか、国内にいる日本語学習者にも活用してもらいたい。 オーラルヒストリー（インタビュー動画）については、フリーアナウンサーの古館伊知郎氏が活動の趣旨に賛同し、インタビュー収録を快諾してくれた。今後も社会全体で未来のクリエイターを育てていく熱量を感じ取れた。	B
2023-3054	『20歳の20冊』	一般財団法人出版文化産業振興財団	読書離れ、特に20歳前後の若者が紙の本を読まないといわれており、大学生を対象に行った調査では、1日にまったく本を読まないと回答した人は約50%にもなる。 当事業は、若者に人気の著名人5名に各3冊本を推薦いただき、残り5冊を採用する自治体を選び、それを冊子にして、成人を祝う式典にて配布する。 また、冊子には著作権のページも掲載し、読書のきっかけとともに著作権への理解を深めることを目指す。	1,936,000	580,043	配布数は増加したが、採用自治体数が昨年度同様であったため。 次年度は BOOK MEETS NEXT の一環として多くの自治体への参加を呼び掛ける。	B
2023-3055	「本だなプロジェクト」	一般財団法人出版文化産業振興財団	SDGsの『貧困をなくそう』『質の高い教育をみんなに』の実現にむけて、子ども食堂や無料塾に、本棚と本を寄贈し、さらにそこではおはなし会開催のサポートをする事業。 家に一冊も本がない、本が好きなのになかなか買ってもらえない子どもたちに、本との出合いの機会をプレゼントし、おはなし会を開催することで読書の楽しさを体験してもらうことを目的としている。 また、当事業で読み聞かせを行う方には著作権を守る大切さを伝えていく。	3,978,000	2,386,709	当初50施設の予定で申請し、申込施設も50施設以上あったが、ヒアリングをさせて頂くと当事業の目的に沿った活動が難しいと判断せざるを得ない施設があり、また助成負担を減らすため、図書費などを出版社の協賛で賄おうとしたが、参加頂ける出版社が不足したため、30施設と当初予定より少ない範囲で行った。 しかし、開催したそれぞれの施設において、おはなし会が順調に開催されており、施設を対象にとったアンケートもおおむね好評であったため。	B
2023-3056	本との新しい出合い、はじまる。BOOK MEETS NEXT	一般財団法人出版文化産業振興財団	全国の書店、出版社や販売会社・著者・図書館など出版関係者が一丸となって行う、読書推進キャンペーン。 本好きな方だけでなく、これまで本に興味のない方にも本と出会う機会を創造し、地域や機会との区別なく業界横断型の取り組みで、より多くの方に書店に来店いただくことを目指す。 また、大学との連携も進め、「産・官・学」が連携した取り組みとして、出版界全体に大きな変化をもたらす。	37,944,000	36,294,853	助成のお陰で今まで以上に展開が充実・拡大が可能となり、多くの告知が可能となったため、以下のような明確な成果が表れた。 ① 参加書店 全国3,724書店、店頭開催イベント 8,788企画 ② KYOTO BOOK SUMMITのXのアクセス数が約32万件 ③ イベントの出演者の事務所が発信したXのアクセス数が約50万件 ④ 参加書店は全国の非参加店に比べPOS売上が上昇、京都は全国一番の伸び	A

2023年度共通目的事業 実施事業一覧

一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）

<事業評価>

評価項目を確認した合計点数に応じて3段階で評価を記載（評価項目は本一覧の最終ページ参照）

合計点数が10点：A 合計点数が8点：B 合計点数が8点未満：C

【助成事業】

管理No.	事業名	申請者名	事業概要	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業報告	事業評価
2023-3057	視覚障害者の利用を目的とした、辞書機能付き自動音声読み上げ電子書籍リーダーシステムの試作	株式会社ボイジャー	電子書籍リーダーに付帯した辞書機能付き自動音声読み上げシステムの開発により、読書バリアフリー法に基づく読書環境を構築し、障害の有無にかかわらず利用者が等しく読書し学ぶことのできる社会の実現を目指す。 本システムは、電子書籍データ（リフロー型EPUB）を活用した汎用的なシステムとして開発し、著作者、出版社、読者、配信会社等の権利を守りながら、さらに有益なインフラの基盤として、著作物の創作の振興及び普及に寄与する。	10,000,000	10,000,000	今までは電子書籍リーダーなどは、維持・保守などの費用が多分にかかるため、今回開発した、『視覚障害者向けのインターフェース』や『辞書機能付き自動音声読み上げシステム』など、一般的に公開し、だれもが自由に検証、体感できるスペースがそもそも存在していないというのが現状であった。 本事業でシステム試作を構築できたことにより、専修大学バリアフリー研究会のような団体および、関係各所が自由に試験や検証し、意見交換のもととなる環境を提供できたのではないかと感じている。 このような環境を整えることで、誰もが平等に読書し学べる場所となり、それにより読書バリアフリーの意識がより社会的に浸透し、アクセシビリティの向上につながるプロセスが生まれると実証試験を踏まえて強く感じた。 アクセシビリティは公共的な要素が強いため、一企業が率先してビジネスとして取り組むことは現実的に難しい。今回、SARTRASの助成金を活用できるとのことで、このような一歩を踏み出したことは大変ありがたく感じた。 私ども株式会社ボイジャーとしては、この歩みを止めぬよう、健常者も障害者も隔たりなく活用できる読書環境の構築に向けて、その歩みがさらなる成果につながると信じ、システム向上に努めていく所存です。	B
2023-3058	「図工・美術授業にカメラ」	公益社団法人日本広告写真家協会	全国の小・中学校を対象として、図工・美術授業にカメラを取り入れた実践授業を実施。その成果発表の場として、「全国学校図工・美術写真公募展」を開催。 児童・生徒が学校の教育活動で造形表現した作品を撮影し、メッセージを添えて応募。入賞・入選作品は当協会のホームページ、図録付き教則本「始めよう、カメラの授業！」に掲載。受賞者には賞状を授与する。	9,301,962	7,969,857	引き続き助成をいただいたことによって、2023年度もカメラ授業と公募展の告知を広く行う事が出来て多くの学校でカメラ授業が出来ました。また遠方の学校でも授業を実施することが出来ました。授賞式を開催することができ、たくさんの方にご参加いただいで盛況な式となりました。入賞・入選作品のオンラインギャラリーを実現することが出来ました。	B
2023-3060	第29回宮日音楽コンクール	株式会社宮崎日日新聞社	小学生から一般を対象とし、優れた演奏家を発掘・育成するとともに、音楽文化の振興に寄与することを目的としている。 ピアノ、声楽、弦楽器、管楽器、打楽器の5部門で、審査員には毎年、国内外で活躍する音楽家を招聘している。 県外からも出場者が多く、入賞者の一部は国内外の著名な演奏家が行う育成プログラムに参加できる特典もある。	200,000	200,000	運賃・宿泊費の値上がりなどによる諸経費支出の増加、本選出場者数の減少などにより、事業収入で支出をまかなうことができませんでした。貴協会の助成金により運営への影響は最小限に抑えられ、多くの参加者が演奏を競い合うことができました。ありがとうございました。	B
2023-3061	新「STOP! 海賊版」キャンペーン 漫画愛プロジェクト	一般社団法人ABJ	これまでの「STOP! 海賊版キャンペーン」と同様に、読者の漫画愛に訴えかける、話題性のある啓発素材を制作、それをベースとしたアクションを次々と実施。「海賊版での閲覧は絶対NG」「かっこ悪いこと」という世論を形成していく。 また、2022年度に制作した、「ありがとう」動画は、これまでにないクオリティに仕上がっており、屋外広告やさらなるデジタル展開で拡散を目指す。	15,000,000	15,000,000	想定以上の新聞読者が「自発的に写真を撮影して拡散」し、その結果、1600万を超えるインプレッションを達成したこと。また朝日新聞の調査にもデータとして現れているが、広告自体の評価も非常に高い点（年齢層問わず）。そして、昨年のキャンペーンが届かなかった層にもリーチできた点	A
2023-3062	著作物の収集整理機能を備えたインタラクティブ教材自動作成システムの構築	特定非営利活動法人連想出版	各種の公開サービスを使ってユーザが自由な発想で著作物を収集整理する機能（万能書棚、カードDB等）と、集めた素材をインタラクティブな教材として利用するための教材自動作成機能（セルフミュージアム、テキスト・カード・クルーズ、連想eReading読書環境、TIMEMAP伸縮自在比較年表、重ね地図ギャラリー等）を備えた教材自動作成環境を構築する。	50,000,000	50,000,000	従来の教材作成環境は、利用できる情報源のタイプが限定される場合が多かったが、本システムはその制限を超えた資料収集を可能にしている。新しく提案した4種のインタラクティブ教材形式は、見せ方を固定したスライドショーとは根本的に異なり、利用者による自発的な読み解きを基本とする点で探求的学習に適している。試用してもらった学習者からの評判もよく、予想を超える成果があったと判断した。	B
2023-3077	視覚障害者等への読書推進事業	公益財団法人文字・活字文化推進機構	視覚障害者等の読書活動に必要な不可欠な「アクセシブルな書籍」の製作及び提供には、著作権（図書館の障害者サービスにおける著作権法第37条第3項に基づく著作物の複製等に関するガイドライン等）への理解が求められる。 本事業では「読書バリアフリー法」の普及及びあらゆる人々の読書活動の充実化を図るべく、障害者の読書支援、読書バリアフリー法と著作権のあり方を伝えるフォーラム・セミナーを開催し、アーカイブ動画やパンフレット等での普及活動を行う。	4,100,000	4,100,000	フォーラムの参加者からのアンケートでは「当事者ならではの話も聞くことができたので、とても参考になった」、「読めるまでにさまざまな問題を解決しなくてはいけないのが分かった」、「知ること、知らせる事、伝える事がはじめての一步」などの意見が寄せられ、事業目的の1つとしていた「障害者の読書環境について知っていただくこと」、「知ることの重要性を周知すること」を達成できた。アーカイブ動画の再生回数や高評価数も高まってきており、障害当事者である市川沙央さんの芥川賞の受賞によって以前より「読書バリアフリー」に注目が集まっていることを好機として、今後も幅広く継続的にPRしていきたい、さらに成果を高めていきたい。	B

2023年度共通目的事業 実施事業一覧

一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）

<事業評価>

評価項目を確認した合計点数に応じて3段階で評価を記載（評価項目は本一覧の最終ページ参照）

合計点数が10点：A 合計点数が8点：B 合計点数が8点未満：C

【助成事業】

管理 No.	事業名	申請者名	事業概要	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業報告	事業評価
2023-3078	小学生への読書活動推進及び著作権への理解促進事業	公益財団法人文字・活字文化推進機構	本事業では、読書活動の推進に関心を持つ指導者へ、小学生向け読書活動推進（ビブリオバトル）の手法を伝えると同時に、子どもたちへの著作権教育を広めるために、①指導者向け小学生ビブリオバトル講座の開催、②How To（ハウツー）動画の制作・公開を行う。小学生への読書活動推進や著作権教育を指導する際のポイントを分かりやすく伝え、教育現場での著作権法の正しい理解と運用の促進を目指す。	4,950,000	4,950,000	ビブリオバトルの講座を開催する前には、ビブリオバトルという言葉は知っていても、「知っているだけでやったことはない」、「難しそう」、「やり方や伝え方がわからない」といった声が多かった。実際に自分たちが体験してみると心のハードルが下がり、解消されることが多いため、当講座ではレクチャーの他ミニビブリオバトルを開催した。受講者からのアンケートでは「やってみると簡単だった」、「紹介してもらった本を読みたくなった」などの声が多く寄せられた。 動画の再生回数も伸びており、本の魅力を楽しみ発信できるビブリオバトルの普及とともに、本を紹介する上では、守らなければならない法律があるということを伝えるコンテンツを制作することができた。当初予想していた通り、今後も多く指導者の読書推進活動の参考にしていただける成果物を作り出すことができた。	B
2023-3080	第28回 どうしん小学生新聞グランプリ	株式会社北海道新聞社	北海道内の小学校および特別支援学校小学部に在籍する全児童を対象に、手書きの新聞を作って応募してもらうことで、活字への親しみと社会への関心を喚起することを目的としている。応募は個人もしくは学校単位で、作品を事務局に直接送付が持参して受付。審査は学校長OBや北海道新聞社教育関係部局、現役小学校長、教育委員会など教育関係者による3回の審査で最高賞（まなぶん大賞）ほか436作品を選出する。	5,640,000	5,640,000	今年の実施では、児童が新聞制作で取材した団体から逆に取材を受け、作品を応募前もしくは返却後に貸し出した案件があったと聞いている。当事業の目的である文字・活字文化の振興や新聞への興味喚起以外にも、子どもの取材を受ける個人や団体に喜びを感じさせる企画でもあることを認識した。	A
2023-3081	第61回有島青少年文芸賞	株式会社北海道新聞社	北海道と関係の深い作家・有島武郎の業績をたたえ、1963年に創設。中学生・高校生とこれに準じる年齢の方を対象に小説・詩・評論・随想・シナリオ・戯曲・その他のオリジナル作品を募集。最優秀賞ほか最優秀賞1編、優秀賞3編、佳作約10編を選出する。最優秀賞作品は北海道新聞デジタルに全文を掲載し、入賞全作品を収めた作品集も販売する。	830,000	701,227	幅広いジャンルの多彩な作品の応募があり、最優秀賞にふさわしい作品を選取することができた。表彰式・懇親会では受賞者が選考委員から直接講評を聞き、同世代の他受賞者と交流することで多様な価値観に触れ次作執筆への意欲を育むことになった。また、新聞紙面やウェブで選考結果や表彰式の様子を広く世間に発表することにより、著作物創作への理解を深めることができた。	B
2023-3085	高校生直木賞（2023年度第11回）	高校生直木賞実行委員会	直近1年間の直木三十五賞の候補作品を全国の高校生たちで読み、討議を通じて評価し、さらに各校の代表者が一堂に会して議論を重ねることによって「高校生たちの今年の1作」を選出する。そのプロセスと並行して、高校生の「読解力」「語り力」「聞く力」を涵養するために実作者を講師に招いて読書会やトークイベントを複数回開催する。	1,420,000	844,195	当初計画では50校の参加を目標としており、目標にはわずかに届かなかったが、過去最多となる46校の参加をえられ、議論は大いに盛りあがっている。	B
2023-3086	第29回劇作家協会新人戯曲賞	一般社団法人日本劇作家協会	新進劇作家の新作戯曲を公募し、劇作家による審査のうえ、優秀作品を顕彰し、戯曲集の出版などで広く紹介することにより、新進劇作家の育成とわが国の舞台芸術の発展に寄与することを目的とする。	1,000,000	1,000,000	・応募数が、昨年度の182作品から223作品に増えたこと ・審査方法を大きく変更したことによる混乱がなく、審査結果について概ね好評であること	B
2023-3087	部活応援のYouTubeチャンネルとTV番組における著作権啓発動画・CM	株式会社朝日新聞社	YouTube動画・TV番組により、若者に「著作物の重要性、著作権を尊重すること」をアピールする。具体的には、部活動にうちこむ中高生を紹介するYouTubeチャンネルで、オリジナル制作の「著作権啓発動画」と「著作権啓発CM」を公開する。あわせてこの啓発動画を同チャンネルと連動したTV番組内でも紹介する。 著作物の無許諾利用をいさめ、著作者へのリスペクトを喚起する内容を、タレントやアニメーションを使って若者にも伝わるよう工夫する。	10,900,000	9,939,520	著作権啓発という難しい内容を若者にわかりやすく伝えるため、身近な部活動を狂言回しとした動画を作成した。結果的に3本とも1万回以上再生され、さらに、より若者にリーチできるSNSでも計1万回再生を上積みすることができた。限定的な内容ではあるが、今後著作物を利用する際に頭の隅で思い出してもらえることが重要と考える。	B

2023年度共通目的事業 実施事業一覧

一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）

<事業評価>

評価項目を確認した合計点数に応じて3段階で評価を記載（評価項目は本一覧の最終ページ参照）

合計点数が10点：A 合計点数が8点：B 合計点数が8点未満：C

【助成事業】

管理 No.	事業名	申請者名	事業概要	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業報告	事業評価
2023-3088	様々な音楽関連情報の効率的連携に向けたデータ記述ルールの整備と情報連携用データベースの構築、それによるマーケット拡大に向けた環境整備事業	一般社団法人アーティストコモンズ	デジタル化されている各種の音楽関連情報や楽曲情報が、デジタル空間内で円滑に連携を可能とするための、情報の紐づけルールの整備と情報連携用データベース開発を進め、これを業界関係者へ開放し、自由な利用促進を促す。 これにより、日々膨張するデジタル空間内において、ユーザからみた著作物に関する情報発見の機会を効率化、かつ最大化し、音楽分野全体のマーケット拡大の推進を図る。	14,300,000	13,800,000	本事業を通じて、音楽業界関係者の横断的な協力関係の下に、音楽業界全体に向けた標準的な楽曲メタデータのフォーマット、入力ルールの策定を実現することが出来た。これはかつてないエポックな取り組みであり、また、今後のデジタル化時代における音楽業界のDXの推進の原動力になり得る第一歩が確立できたと言っても過言ではないだろう。 さらに、アーティストコモンズの社員社の協力により、業界関係の約1000社のプロダクションが一気に利用開始できる状況（CMSが開放され、楽曲メタデータの入力を今日から開始できる環境）が実現できたことは、他に類を見ない先進的な業界全体としての取り組みになるものと考えている。 もちろん、本事業で実施した楽曲メタデータの入力環境の整備やデータ利用APIの整備は、まだまだ初期段階であり、今後も継続的に楽曲メタデータの入力促進、楽曲メタデータの利活用の促進を行っていく必要がある。その意味では道半ばではあるが、こうした業界横断な取り組みが過去には行われてきた例はない、特に、民間の関係当事者が自らこうした取り組みを開始できたという意味では非常に意義深いものである。	B
2023-3089	日本音楽を紹介するコンテンツ「J-music Spotlight:Discovering Japanese Music」事業	一般財団法人日本音楽産業・文化振興財団	海外における日本音楽の普及・認知向上を目指し、国際ビジネスマッチングイベントである東京国際ミュージック・マーケット（TIMM）のショーケースライブに出演する日本人アーティストのインタビューや楽曲紹介などを中心に映像および音声コンテンツを制作し、インターFMにて番組として放送（週4回、30分）すると共に、併せて映像コンテンツはYouTube、音声コンテンツはPodCast形式で主要DSPのプラットフォームにて配信する。	10,000,000	10,000,000	番組やコンテンツが安定したスケジュールで放送されたことにより、聴衆にとって定期的な聴取が可能となり、一定の聴取層を獲得することができたと共に、アーカイブ配信による聴取者のライフスタイルに合わせたコンテンツの提供も功を奏し、効果的な事業展開を行う事が出来た。また、番組内で音楽の創作や制作過程に関する内容がアーティストの言葉で直接語られたことにより、実際に作品を制作・公表する者への理解が深まり、創作活動を支える動機や想いを直接聴衆に伝えることができた。	B
2023-3093	自主演奏会における著作権制度等の普及啓発活動事業及び著作物の創作活動事業	公益財団法人新日本フィルハーモニー交響楽団	当楽団自主演奏会の来場者に対し、著作権・著作隣接権、授業目的公衆送信補償金制度の啓発を行う。実際に演奏する楽曲を題材にし、プログラム冊子等で演奏会に関係する権利・制度を解説する。実演に接することで権利・制度の存在をより身近に感じてもらい、権利・制度の果たす役割への理解を深めることを目的とする。また邦人作曲家の作品を演奏することで著作物の創作の振興を図る。	10,000,000	10,000,000	冊子による解説は、当初プログラム冊子内を予定していたが、カラーページの別冊子を作成することにより、より関心を持ってもらえる資料を配布することができたと考えます。また邦人作品も予定どおり演奏し、音楽著作物の創作の振興・普及を図ることができました。 また冊子を目にした音楽事務所より弊楽団に対して監修の弁護士の紹介依頼があったのは、予想外の効果でした。所属アーティストの著作物に関するトラブルについての相談と聞いております。 至らなかった点としては小中高学生の招待を当初240名予定していましたが、採択までに残席数が無くなってしまった公演や、十分な招待活動ができなかったことで、40名ほどに留まりました。 以上よりBとするには若干の躊躇はありますが、Bとしました。	B
2023-3094	学校へのアウトリーチによる著作権制度等の普及啓発及び著作物の創作を図る事業	公益財団法人新日本フィルハーモニー交響楽団	小中高校にアウトリーチに赴き、音楽体験授業を行うとともに、著作権・著作隣接権、授業目的公衆送信補償金制度の啓発を行う。実際に演奏する楽曲を題材にし、著作権制度等の仕組みや必要性・重要性を児童生徒に説明する。実演に接し、また演奏に参加して創作者の体験をすることで、権利・制度を身近に感じてもらい、記憶の定着を図ることを目的とする。	6,627,500	4,907,406	実施予定回数は3回3校でしたが、予想を超える希望があり、8回1校約2450名を対象に実施することができました。 また解説部分については専門家の原口直先生のご協力を得ることができ、当初の計画よりもより正確で深い解説を子供たちにすることができました。	B
2023-3095	読書イベントポータルサイトの構築	一般社団法人日本書籍出版協会	広く本の魅力をアピールするため、全国の読書イベント情報を提供するポータルサイトを構築する。カレンダーと地図によって、いつでもどこどのようなイベントが開催されるかを容易に検索できるようにする。さらに、出版物に関するニュースやトピックス、書店や美術館・博物館等の情報、その他の関連情報やおすすめ読書リスト等、読者の関心度に合わせた情報を提供し、本の魅力を伝える。	21,810,000	21,750,000	PV数、書店登録数等の数字は、まだ現状では満足できるものではないが、23年度11月のプレオープンから、2024年度いっぱいまでの1年半の中で当初予定していた成果に近づけることを目標として書店、出版社、その他関係団体等の協力を求めている。サイトの有用性自体については、特に情報発信に課題を感じている小規模の書店、出版社等から高評価を得ており、実際に本サイトの知名度が上がり、利用者が増えていくことで登録イベント数も飛躍的に増加することが予想される。短期的な数字に一喜一憂することなく、本サイトを出版業界全体の共通インフラとして育てていくための素地を固めることができたという点で、共通目的事業基金の助成を得られたことで可能となった本サイト開設は、当初の予想と通りの成果が得られたと考えるものである。	B

2023年度共通目的事業 実施事業一覧

一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）

<事業評価>

評価項目を確認した合計点数に応じて3段階で評価を記載（評価項目は本一覧の最終ページ参照）

合計点数が10点：A 合計点数が8点：B 合計点数が8点未満：C

【助成事業】

管理 No.	事業名	申請者名	事業概要	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業報告	事業評価
2023-3099	第53回京都新聞「お話を絵にする」コンクール	株式会社京都新聞ホールディングス	京都・滋賀の幼稚・保育・こども園児、小学生を対象に「お話（書籍）」の読後感を「絵にする」コンクール。自由な発想と柔軟な感性を育み、豊かに表現する力をつけることが目的。昨年度は787校・園から135,231点の応募があり、京都市内の小学校では授業に組み込まれるなど地域の教育現場に浸透した取り組みとなっている。「著作権」について親和性があり、学べる機会と言える。入賞作品展会場やWEBでの著作権啓発の取組も行う。	1,600,000	1,541,550	今回はより自身にも関係のある身近な問題として「著作権」について考えてもらおうと、本事業に関連付けた著作権にまつわるクイズを作成しました。コンクールのポスター等広報物で用いているマスコットキャラクターが解説する形式にすることで、コンクールに参加した児童は親近感を持って著作権について考えることができる契機をつくることができました。クイズに多くの人に回答してもらうための工夫として、参加者への記念品も制作しました。回答数は3ケタを超え、児童やその保護者の著作権への理解度・認識をはかるデータを収集することができました。クイズ難易度は低めに見積もっていましたが、実際のクイズ・アンケート回答からは、正答率の低い問題があったり、「難しかった」という意見が多かったりと、コンクール事務局と参加者層の「著作権」に対する認識にずれがあったことを知ることができました。著作権についての啓発・学びの機会があることは望ましいという声も寄せられ、今後の啓発事業の重要性がより明らかになりました。	B
2023-3103	バリアフリー図書普及事業	公益財団法人文字・活字文化推進機構	障害の有無にかかわらず、あらゆる立場の方が読者となり、読書環境を充実させるためには、バリアフリー図書や読書支援ツール等を広く周知していく必要があります。本事業では、バリアフリー図書を具体的に知ることができるセットを制作し、公共図書館や学校図書館等への貸し出しを行います。各団体がバリアフリー図書の展示コーナーや研修に活用いただくことで、それぞれの読みやすさに応じた読書のかたちに出合う場づくりの支援し、読書活動の推進・著作物の創作の振興及び普及に寄与いたします。	5,808,000	5,808,000	予定していた受付期間よりもはるかに早く締切せざるを得ないほどの申し込み・お問い合わせ・反響があった。貸出先のアンケートでは、図書館の周辺地域を巻き込んだ取り組みや、セットの展示のみならず、読書補助具（リーディングトラッカー）の手作りワークショップなども開催されており、想定していた以上に充実した活用方法が見られたため。	A
2023-3104	絵本専門士・朗読指導者等のフォローアップ事業	公益財団法人文字・活字文化推進機構	昨年度実施した助成事業「朗読指導者養成講座 初心者研修&フォローアップ講座」を発展させ、同指導者や絵本専門士等、読書活動の推進に関心を持つ方々のスキルアップや活動支援となる講演会及び研修、情報交流の場となる催事を開催いたします。研修では、読み語り等の活動の際に必要な不可欠な著作権への理解を促進するプログラムを盛り込み、著作権及び著作権隣接権の保護に寄与いたします。	5,350,000	5,350,000	「朗読・読みきかせ」を題材とした現地開催での交流イベントは初めて行ったが、どちらの会場も早期にお申し込みが満了したことから、ニーズに合った事業を実施することが出来たと考えている。参加者からのアンケートからも、「活動に力が入る講演を聞かせていただきました。明日からしっかり読みきかせがんばります！」など、元々活動されていた方の活性化はもちろん、「医療関係の仕事柄、朗読とはなかなか出会えなかったが、病気の方に何かを伝えることができたらと思うことができた」など、本事業が異業種の方でも朗読・読みきかせ活動について考えていただくきっかけとなったことが読み取れた。 また、会場でも参加者から著作権に関する質問が上がり、メモを取りつつ、額きながら話を聞いてくださる参加者の姿が見られた。アンケートでも「著作権について基本的な対応を知ることが、活動をする上でとても助けになりました」「著作権のこと、詳しく知れて安心しました」といった感想が寄せられ、著作権についての正しい理解を広める、という面でも効果が得られたのではと考えている。 さらに出版文化産業振興財団（JPIC）が昨年度、費金の助成により作成した「おはなし会・読みきかせ 著作権ハンドブック」も配布させていただき、著作権に関する理解度の底上げと、上記資料の普及広報にも貢献することが出来た。 またアーカイブ動画も、貴協会の助成をいただけたことで2種の新聞広告を出稿することで、大変好評をいただいている。web 広告では「親の言葉を子は真似る」というフレーズのクリック率が特に高く、お子さんのいる親世代など、広く言葉について関心のある方にも、朗読・読みきかせ活動や著作物の正しい利用について普及することができた。また記事広告では、出版業界内に読者の多い媒体に掲載いただき、業界内での著作物の利活用促進にも資する事業となったと考えている。	B
2023-3105	学校図書館の充実・活性化事業	公益財団法人文字・活字文化推進機構	学校の教育過程の発展と、児童・生徒の教養の育成、読書習慣の形成には学校図書館が大きく関わっています。調べ学習等、授業に役立つ学校図書館活用のポイントや、学校図書館での図書資料の管理に役立つ修繕・適切な破棄のノウハウ、教育現場における著作権のあり方などを教員、司書教諭、学校司書を対象にお伝えする研修を開催し、学校図書館の充実・活性化を目指す事業です。	2,795,000	2,795,000	今回の講座は募集開始からわずか2日で募集人数に達したほど、学校図書館に携わる方々にとってはとても魅力的な内容だったことが伺える。学校司書は一人職であるうえ、きちんとした研修が行われていない自治体も多いことから、常に情報を求めている傾向がある。それらは今回の募集人数に達した速さが物語っている。横浜での開催にも関わらず、関東一円から参加があり、ニーズの手応えを実感した。 子どもたちと本との一番身近な接点である学校図書館の関係者（司書教諭や学校司書等）へのスキルアップや著作権の理解促進、日常業務の支援を目的とした本講座を開催したことにより、学校図書館の利用の活性化や、学校図書館内の資料の充実、ひいては読書活動の推進、著作権及び著作権隣接権の保護、著作物の創作の振興及び普及に資する事業として予想を超える成果があったと判断する。	A

2023年度共通目的事業 実施事業一覧

一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（SARTRAS）

<事業評価>

評価項目を確認した合計点数に応じて3段階で評価を記載（評価項目は本一覧の最終ページ参照）

合計点数が10点：A 合計点数が8点：B 合計点数が8点未満：C

【助成事業】

管理 No.	事業名	申請者名	事業概要	助成決定額（円）	助成確定額（円）	事業報告	事業評価
2023-3110	山形ドキュメンタリー道場6	ドキュメンタリー・ドリームセンター	日本とアジアの新進ドキュメンタリー映画作家たちが、製作中の自作をたずさえて雪深い山形県の湯治場に一カ月滞在する、人材育成プログラムの6回目。地域住民や講師と交流を交えつつ、切磋琢磨しながら作品づくりを見つめなおす創作を支援する。また、地元の古い映画を新たにデジタル化して国際映画祭で上映し、地域の記憶を継ぐ著作物の価値について考える機会を創出する。	3,700,000	3,700,000	<p>これまで5回開催してきた「山形ドキュメンタリー道場」の中でも、もっとも参加メンバー同士が強く結びついた年だった。英語が得意でない日本人の制作者も、中国とインドの制作者たちと毎日のように深く議論し合い、映画作品の創作やビジネスのこと、人生のこと、世界のことについて意見交換をして切磋琢磨した。</p> <p>アンケートや感想文には「新たな可能性が発見できた」「今後、映画について妥協せず考えることをやめず、行動を続けていくための糧になる経験だった」「ずっと一人でやってきたので素材との距離が取れなくなっていた。ディスカッションで考えもしなかった作品の可能性が見えてきた。」「いつも一人で悩んで、ただ焦ったり混乱したりしてきたが、これまでと違う「呼吸の仕方」を覚えた。柔軟に考えること、悩む時間に耐える方法を教えてもらった。」「中堅キャリアになってから学び合える場はあまりない。今回のように身をさらし裸になることは容易ではないが、そのことで生まれる強さに気づいた。」「言葉の壁を越えて、何でも分かち合えた安心できる友情は特別なものだった。」等の成果を喜ぶ声があった。</p> <p>また、地元婦人会から交流事業（英会話教室等）の提案をいただいたり、人が交わる場に集う人が多く、国際交流や文化交流を通した地域の活性化の機会として受け止められ、歓迎されていることが確認できた。これは地域活性化に寄与できたという確信と、今後の継続に期待させるものだった。</p>	B
合 計				518,591,102	489,423,202		

自主事業	合計額	39,648,209
委託事業	合計額	51,449,819
助成事業	合計額	489,423,202
合 計		580,521,230

評価項目（各2点）	
1	適切な内容の個別事業報告書が提出されている
2	共通目的基金が申請通りの用途に利用されていることを裏付ける証憑書類が提出されている
3	事業が申請通りの内容で実施されている
4	共通目的事業 個別事業（自主、委託、助成）であることが適切に表示されている
5	特記事項（上記1～4項目に加えて評価点があった場合に記載）

事業評価結果（各事業の事業評価を集計）	
評価項目の合計点数が10点：A	16件
評価項目の合計点数が 8点：B	59件
評価項目の合計点数が 8点未満：C	0件
合 計	75件